



2022年 7月 27日  
第13号

# JR 東労組 Yokohama

JR 東労組横浜地本

発行人 助川 一実  
編集 情宣 担当  
ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



## 「横浜支社での現業機関における柔軟な働き方の実現について(その5)」提案を受ける

JR東労組横浜地本は7月27日に横浜支社から表題の提案を受けました。労使議論を経て、ことし3月に桜木町営業統括センターおよび湘南・相模統括センターが発足し、7月には小田原・伊豆統括センターが発足しています。今年4月25日に受けた提案(その4)で概要が示されていましたが、本日の提案により要員規模を含め、一定の職場形態が示されました。引き続き、組合員の不安解消と「安全・健康・ゆとり・働きがい」のある労働環境を実現するため、議論を重ねていきます。

### 1. 発足箇所

- 「川崎統括センター」
- 「横浜営業統括センター」
- 「町田営業統括センター」

### 2. 発足日

2023年3月1日(水)



※ダイヤ改正と分けているのが特徴

### 3. 体制

- ・業務の繁閑に応じて1日当りの出面数(作業ダイヤ数)を柔軟に設定する。
- ・上長の指示により管理者が一般社員の業務を、または一般社員が管理者の業務を行う場合がある。

### 【提案時の特徴的な議論】

組 合	会 社
施策の目的を示すこと。	・様々な経験をしていただく。社員の成長。
エリアを設定した根拠を示すこと。	・線区単位を基本としつつ、社員管理が出来る範囲内でエリアと規模を勘案して決めている。
なぜこの時期の提案なのか。	・(営業)統括センター発足に合わせて提案している。
(川崎・鶴見統括センターの)名称が変更したのはなぜか。	・総合的に勘案した結果である。
発足日が3月1日である理由を示すこと。	・様々勘案した結果。より良いやり方は今後検討していく。 <b>ダイヤ改正と(営業)統括センター発足は別である。</b>
テンポラリースタッフの運用はどのように考えているのか。	・1つの(営業)統括センター内で運用する。(営業)統括センター内の他箇所へ助勤もあり得る。 ・募集方法については、今後変わる可能性がある。
女性設備の整備をどのように考えているのか。	・出来る所は整備していくが、検討中である。
各地区センターの役割はどのようになるのか。	・(営業)統括センター内で担っていただく。地区センターと同じ機能を持たせていく。地区の考え自体も変わる。
乗務員区との兼務・連携はどのように考えているのか。	・基本はそれぞれの(営業)統括センターのエリア内で対応する。 <b>相模原運輸区については、湘南・相模統括センターなのか、町田営業統括センターなのか、明確に出来るようにしていく。</b> ・(行路内の駅業務等については)必ずではない。兼務・連携は仕切りを設けない。社員に様々担っていただく。
エルダー社員についてはどのように対応するのか。	・現行の業務を担っていただくが、23年度以降のエルダー社員については様々な業務を担っていただく。
(営業)統括センターから他の(営業)統括センターへの兼務はあり得るのか。	・現時点では考えていない。人事異動をかける。
過半数代表についてはどのように考えているのか。	・近くなったらご案内する。より公平、公正に取り扱う考えに変わりはない。

次号②に続く